

(3)

2015年3月21日

教 团 新 報

(第三種郵便物認可)

第4817号

東京神学大学 「内地留学制度」ご案内

日本基督教団の伝道に神学的バックボーンを提供したい。教団との信頼関係を回復して2年、「教団立東京神学大学」として、宗教改革の改革精神に相応しい大学の自律を確保しつつ、教団の伝道のためにどのような貢献ができるかを考えてきました。

その中でまずは、「内地留学制度」というものを整備することとし、教団常議員会でも学長が説明しつつ、学内の検討を重ね、2015年度から実施するため、このたび要項を発表しました。

制度の趣旨は、主として日本基督教団教師が、本学において学位ならびに卒業資格の取得を目的とせずに半年間の神学研修をする制度です。

神学校で既に学んだことでも、伝道者として教会や学校に遣わされてようやく納得することがたくさんあります。あるいは信徒や求道者と対面していくわからなくなってしまう場面があります。一旦立ち止まる必要を感じる。もう一度学び直したい。これは伝道者が一度は経験する深刻な求めではないでしょうか。一度立ち止まってご覧なさい。まずは半年、必要なら1年、神学校に戻って自分を吟味し直しませんか。そのような時をもつことが主旨ですから、科目は2科目以上参加すればよろしいです。卒業資格や学位を目的としないとはいえ、科目履修も条件を満たせば可能です。



この制度は、ただ本学卒業生だけの求めに答えようとするものではなく、教団教師の皆様のための制度ですから、いずれの神学校を卒業した方も利用できます。もちろん、教団の世界教会的使命に鑑みて他教派所属の教職にも門戸は開かれています。

このような学びの必要を教団教師の皆様、また教区・教団においても大切にして下さり、必要とする教師を送り出して下さい。また財的支援をして下さるように、お願ひ致します。

期間中の住まいは、ご自分でお探し頂ますが、学生寮に空き室がある場合にはご利用頂けます。

出願方法や費用については、本学教務課にお問い合わせ下さい。

東京神学大学教授会書記
大住 雄一

《東京神学大学教務課 TEL 0422-32-4185》



後列左から、小林、山畠
前列左から、北、石橋室長、岩田書記

15年1月17日逝去、82歳。
滋賀県に生まれる。57年に
同志社大学大学院を卒業、
同年より王寺(現西大和)
教会を経て、教団事務局に
勤務し、ニューヨーク日本
語教会牧会後、97年から00
年まで安中教会を牧会。遺
族は姉・太田結子さん。



中嶋 剛氏 (無住所教師)

消白

事務局報

お詫び・訂正

新報4816号、1面常
議員会報告・冒頭記事、祈
祷会開催日「2月29日」を
「1月29日」に、2面「教
育委員会報告」写真キャ
プション中、「新井偉作」氏に、お詫
びして訂正いたします。

横須賀学院中高
教師異動

安岡 幸洋

平塚中原 辞代 西川晃充

就(代) 松隈 協

就(代) 下田 洋一

辞教瀧澤雅洋

78年まで脇本教会を牧会。

静岡県生まれ。75年に東京

聖書学校を卒業、77年より

78年まで脇本教会を牧会。

遺族は父・赤堀弥一さん。



赤堀とし子氏 (無住所教師)

統一原理、カルト問題相談会

◎日時 2015年3月27日(金)
午後1時~3時
◎場所 日本基督教団 会議室(東京都新宿区大久保1-7-18アサヒニューシティビル4F)

TEL 03-3202-0546
最寄り駅=JR山手線「新大久保」駅徒歩6分、東京メトロ副都心線「東新宿」駅徒歩4分

◎問い合わせ先
TEL 03-3203-4270 (日本基督教団東京教区)



後列左から、水沼、熊江、山畠、二神、田中
前列左から、長崎総幹事、成田委員長、飯田書記

第39総会期の第1回委員会が、2月16~17日に教団事務局B会議室にて行われた。

機構上考える役割・使命について議論

▼伝道委員会▲

申請については、すべて申請通りに承認した。(中村町教会、大磯教会、大塚平安教会、愛宕町教会、宮田教会)。

大三島義孝幹事より、業員会報告、東日本大震災救援対策本部報告を受けた。また、山畠委員より伝道推進委員会報告を受けた。

金のため、開拓伝道援助金と創立記念日献金などが豊かにささげられることをお願いしたい。

38総会期委員会報告および申し送り事項を確認し、会への流れを作った。また、教会の伝道推進のため用意で開会式がもたらし、初めて顔を合わせた委員たちが挨拶を交わした。長崎哲夫教団総幹事、竹澤知代志教団出版局長も挨拶に訪れ、伝道委員会に対する思いや意見を伝えられた。

委員会組織として、委員長に成田、書記に飯田敏勝が選出された。その他の担当者は以下の通り。

宣教委員会「成田、『この日の友』編集員」「田中」「信徒の友」編集員」「田中」「かおる・水沼昭子(てるこ)」、農村伝道担当者「熊江秀一・成田、刑務所伝道担当」「飯田・二神一人、伝道推進(室長)、北紀吉、岩田昌(高知中)

は、第1回委員会を12月2日、第2回委員会を2月9日、教団会議室で開催した。

今期の委員は、石橋秀雄(以下に、第1回・第2回委員会の主な協議内容を記載する)。

委員会であるため、教規第48条で主語となる常設専門委員会である伝道委員会ではなく、常議員会が設置した委員会であるため、教規第48条により設置された特設委員会と見なすべきである。

但し、設置期間が明記されていないので、総会期を超えて廃止されるまで活動し続ける「室」であり、総会期毎の継続議案を必要としている以上を確認した。

「伝道推進室基本方針」を読み合せ、その内容を確認した。諸教会にアピールする「総会期スローガン」として、「伝道に燃える教団」を認めた。

2. 今総会期のスローガンと読み合わせ、その内容を確認した。

3. 活動計画及び予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

4. 協力委員の選定

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

5. 活動報告

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

6. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

7. 活動実績

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

8. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

9. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

10. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

11. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

12. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

13. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

14. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

15. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

16. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

17. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

18. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

19. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

20. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

21. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

22. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

23. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

24. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

25. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

26. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

27. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

28. 活動評議

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動計画を

推進する。

29. 活動予算

前総会期の申し送り事項を受けて、主な活動



上、1889年1月9日付「新愛知新聞」に掲載された「女子専門冀望館」の生徒募集広告。生徒3人から始まる。

左、Anny P. E. Randolph
アニー・ランドルフ (1827-1902)

アニー・プリスキラ・エドガー・ランドルフは、1827年9月14日、現ウエスト・バージニア州生まれ、約30年間にわたりアラバマ州、ジョージア州、ケンタッキー州で学校の教師を務めていました。1871年に外国伝道局に宣教師を志願すると翌年の1872年に中国派遣宣教師の任を受け、中国杭州に渡ったランドルフは寄宿女学校長に就任し、女子教育に従事してきました。

1888年、ランドルフは健康を害して強制帰国を命じられ、帰路につきます。その途中のこと、元中国宣教師の親友ミセス・ランバスに会うため神戸に立ち寄り、しばらく滞在。日本の気候が自分の身体に良いことを知ったランドルフは、米国南長老教会宣教師マカルピングの説教を受けて名古屋に移住し、日本基督教名古屋一致教会（現日本基督教団名古屋教会）牧師、阪野嘉一が館長だった男子英語塾「冀望館（きぼうかん）」の英語教師を務めることとなりました。

そこで、女子教育に生涯を捧げてきたランドルフは、日本の女性の地位の低さを目の当たりにします。女子教育の必要性を悟り、1889年1月に女性の英語クラスを開くと8月には男子の「冀望館」を閉鎖し、9月に女性のための「女学専門冀望館」に改組、3人の女生徒を迎える、「女学専門冀望館」を開校しました。そのとき彼女は自費で2間の教室を建て、自給独立を原則としました。ランドルフの想いはただひとつ、「神を畏れ、神への奉仕にその生涯を捧げる、つまり人を愛することをライフワークとする女性の育成」。これが彼女の教育方針であり、それこそ金城学院の建学の精神でした。

開校の翌年（1890年）に「女学専門冀望館」はカンバーランド長老系の「紅楓女学校」と合併し、同年4月に校名

宣教師からの声 番外編

名古屋に女子教育の種を蒔き、金城学院大学の基礎を築く

学校法人金城学院「金城学院大学ものがたり」より

ランドルフの功績を記念する「アニー・ランドルフ記念講堂」。1992年竣工。12枚のステンドグラスでイエスの生涯が描かれている。



を「私立金城女学校」と改称。生徒数は次第に増え、1891年に校舎が新築されるなど順調なスタートを切りました。しかし残念なことに、同年10月の濃尾大地震によって校舎の一部が損壊。ランドルフもその余震の影響で健康を害し、1892年、帰国を余儀なくされます。

彼女は教育に対して大変厳しい方でした。生徒たちには毎日新しい英単語を覚えさせ、翌日、暗唱できない生徒を後ろの席に変え、生徒たちは反発することなく、最前列に座れるように一生懸命勉強したと伝えられています。

生徒たちの勉強意欲を高めたのは、ランドルフの人柄にありました。中国語は話せても日本語が苦手で生徒の名前がなかなか憶えられなかったランドルフは、いつも生徒たちを「娘」と呼び、生徒たちは温かみと親しみを感じ、先生のお役に立ちたいと、先を争って彼のもとに走っていましたといわれています。

ランドルフの名古屋滞在は、わずか

4年間でした。しかし、この間に女子教育の種を蒔き、金城学院大学の基礎を築いた功績は偉大です。金城学院は創立100周年記念事業のひとつとして「金城学院大学ランドルフ記念講堂」を建設し、名古屋の女子教育者の人としてランドルフの名を後世に伝え続けていきます。

(Kyodan Newsletterより)

★講演会情報	『教会と旧約学はいかに手を結ぶか』北米を代表する旧約学者の旧約学者W・ブルックマン著 小坂聰・左近豊監訳	行
講師・左近豊	＊本体6200円	＊判上製・530
日時・4月9日(木)	＊銀座教文館9階	＊本体6200円
会場・銀座教文館9階	参加費・500円	会場・銀座教文館9階
※講演会の詳細はホームページを参照。お申し込みは教文館キリスト教書部へFAXまたはメールで。	＊本体6200円	＊本体6200円

廣中佳実さんは、宇都宮市で生まれ、高校まで宇都宮で過ごしました。西東京教区・東京台灣教会員の両親は、「一番早く教会に来て、一番遅く帰る」一家として、教会で知らない人はいない。

佳実さんは0歳の時から、両親に連れられて、東京・南荻窪の教会に通い、「朝7時半に家を出て、夜10時に帰る」という日曜日を過ごしました。東京台灣教会は、今年創立90周年を迎える歴史ある教会で、留学生が多数派を占めている。

台湾教会の数は限られているので、栃木県から通う人もいる。台湾で生まれ、30数年前、来日した佳実さんの両親は、日本に帰化

する道を選び、双方の姓を勘案して廣中姓を創出した。

佳実さんは、日本で育つことなく、台湾で育つことなく、両親が育てられた環境で、台湾の教会で、交換留学で1年間、台湾の西親の母國・台湾には、高校

京語、台湾語、英語を使いこなす様になつてから、いろいろな所で用いられるようになり、進んだ佳実さんは、中国語北

京語、台湾語、英語を使いこなす様になつてから、いろいろな所で用いられるようになり、昨年3月、仙台での東日本大震災国際会議では、中国語通訳として活躍した。

西親の母國・台湾には、高校生の時、教団の台湾プログラムに参加して訪れ、大学生となつて、交換留学で1年間、台湾の大学でも学んだ。日本と台湾の教会の空氣の違いも肌で感じるようになつた。「台湾の教会で西親の母國・台湾には、高校生の時、教団の台湾プログラムに参加して訪れ、大学生となつて、交換留学で1年間、台湾の大学でも学んだ。日本と台湾の教会の空氣の違いも肌で感じるようになつた。『台湾の教会で西親の母國・台湾には、高校生の時、教団の台湾プログラムに参加して訪れ、大学生となつて、交換留学で1年間、台湾の大学でも学んだ。日本と台湾の教会の空氣の違いも肌で感じるようになつた。』

八ととき

廣中 佳実さん

中国語・台湾語通訳で活躍



栃木県宇都宮市生まれ。東京台灣教会員。教団世界宣教担当。

「主任牧師」は
キリスト

さらに、教会堂・牧師館の管理も加わる。小規模の教会の場合、さまざまなことが牧師とその家族の負担になっていることがある。この冬も、秋田県の豪雪地域の教会に仕える牧師のお連れ合いが、

笑顔でいて、ダジャレや冗談を言つたり、自分の失敗談を話して会

る。それらに加えて、教勢・財政力の低下により全体的に暗くなりがちな教会の中で、つとめて明るい教師たちの働きが守られ、祝されたり、自分の失敗談を話して会

るようなど祈つている。

（教団総会書記 雲然俊美）